



戌春
新板

景松画
万丸作

上

~13
2378
291



一巻 特
2378
291

一亭万九作
歌川景松画

上之卷

瀟瀟競白雨嘶

戊新板 萬吉梓

一

五月雨ふ池の真菰の水増しそ似たりや似る花菖蒲かき
ほりて毫の毛乃二本足らぬ猿智慧もく胸やう虎のうけ
ゆけど尻尾へ蛇のあま殺し鳴声夜鳥お類たふが如き首
尾も不具の鄙辞短文あれども拙作へ尻玉よりおれ見へ負強
き八百八町八千八声郭公名をも雲井おあぶるの那と弦月
のせりぬ柔る鳴呼小子おらう怖いあんどもおろるりト
其故事の絶間あれ白雨の夜に徒然お聊古本乃僕
奴拂ひ檐の玉水を硯おうけく。

天保八丁酉仲夏稿脱
同 九戊戌孟春發兌
一亭万九誌 ○



禪定寺伴僧愚鈍坊

實ハ伊与前司

信負男

中年市医と

成て大内山

長春とら

後ニ還俗

黒白之助と名乗る

あつちのすけ
 赤ん坊
 底
 又之度濁り

禪定寺の
 首長

野の池
 六ヶ水



胸の火おのる

消えん

何や免も

つらね

浪士

龍口

紀三三

娘去来

後天磯玉免樓

全盛艶月

梶原家扈從

咲乱昔浦之助

實ハ伊豆判官仲綱
 三男



ついで中あやしれんげのち
 ろせんとあられけんせんげん
 けいさのもくひとせをさぐりて
 くれかかひのちのてをてはそ
 であはもやちへいひひとけい
 まのて日イトひとあはけか
 カントスかりふいふんちうの
 そてりたえたりひの
 ああやちうてん
 せのうけあつた
 かやあををを
 うけまの
 ままをあく
 うきりあ
 りける
 ああやちうてん
 せのうけあつた
 かやあををを
 うけまの
 ままをあく
 うきりあ
 りける

美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の

美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の



ついで中あやしれんげのち
 ろせんとあられけんせんげん
 けいさのもくひとせをさぐりて
 くれかかひのちのてをてはそ
 であはもやちへいひひとけい
 まのて日イトひとあはけか
 カントスかりふいふんちうの
 そてりたえたりひの
 ああやちうてん
 せのうけあつた
 かやあををを
 うけまの
 ままをあく
 うきりあ
 りける

美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の

美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の

美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の
 美々香とす一色に十八銅の



つとめふさぎだ
あきつよこさけの
のさけいん

●さきいれあやめ
のすけとやうめのこと
あきつよこさけの
らつとらけたまあつあやめ
りるるりこあひやうれてい
とそたまけつらうくさあ
ゆづうんあひひひひひひ
大さんあきこのあまひるれ
くんなんあまとうかまのめ
かりうけたくせしとりのり
けんまうりさあくさあけ
るうねせんのかこのあまひ
よあきつよこさけのあまひ
せんいあきつよこさけのあま

あやめ
まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ
まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ

これか
るれどもけいんあまの
めともあまのいんあ
あまのいんあ

あまのいんあ



あまのいんあ
まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ
まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ

まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ
まきま
てんち
えんち
まきま
あやめ

濡
競
白
雨
嘶



版元葛吉

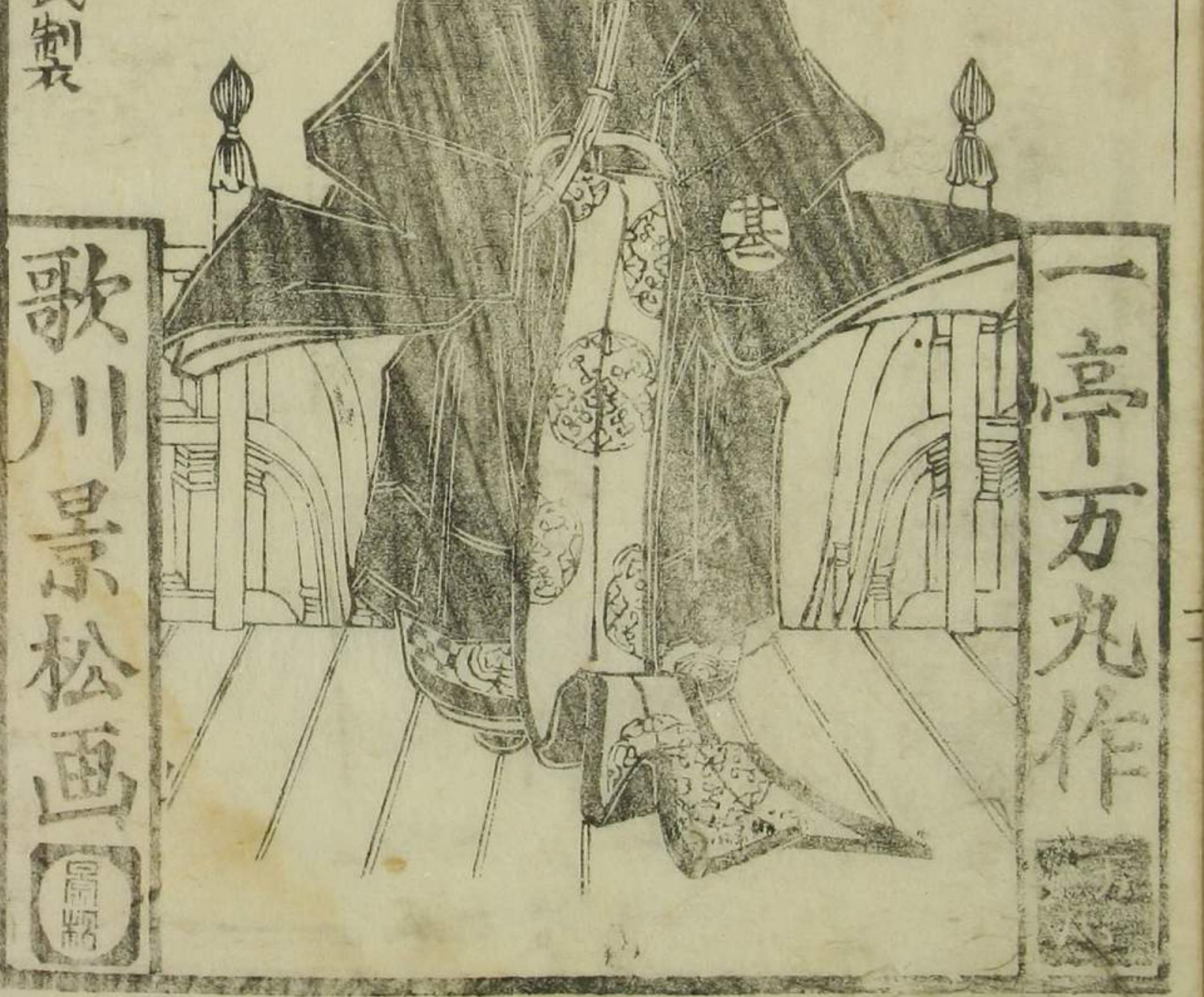
下

天保九戊戌新成版史類目錄

花樓閣 香蝶樓國貞画 全六冊
 漆浴衣新形 武亭小三馬作 全一冊
 忠臣藏替目呂波編 墨川亭煙磨作 五冊
 弘法流 四十七字 香蝶樓國貞画

小櫻姫閉月奇談 墨川亭雪磨作 全四冊
 濡競白雨新 歌川景松画 全四冊
 鏡池面草履打 歌川景松画 全四冊
 和漢各画 歌川景松画 全一冊
 美艷仙女香 四十八銅 取次所 地本問屋 葛屋吉藏版
 黒油美妾香 坂本氏製

○某卯のちの仙女香 四十八巻
 ○美妾香 四十八巻
 右は多し、此は香をえんよるべく
 此のよりの不と有るもの
 江戸系を有するもの 坂本氏製



一亭万丸作

歌川景松画

